

「関西広域連合の意義と役割」

『首都圏に対する羨望、怨嗟を越えて、新たな時代は主導する役割は
関西広域圏にしかないとする自負に立つ。』

その由縁は、

第一に、明治以降に首都圏が主導してきた“物質文明、そして20世紀の石油文明”
がその競争原理と共に、いまや崩壊の危機に直面しているという認識。

第二に、これからの脱物質、脱競争原理に立った新たな文明創成を先導しうるのは、
関西圏域が歴史の中で培ってきた「豊かな文化」の資産であること、である。

・「**関西**」であることの意味： ・「**広域連合**」であることの意味：

1) 関西であることの意味：（“歴史的背景”を踏まえて）

① 中世（江戸以前）

“思想・宗教の伝来地”としての深い哲学的思索の地。

自然豊かな熱帯・亜熱帯降雨森からの自然共生的文化・哲学・宗教が最初に集中的に伝来した関西圏域には、その深い哲学思想の中心地としての集積が現在も息づいている。

② 近代（明治以前）

・“上方”としての文化、伝統に依拠したハイクオリティな地域。

（実用、効用、民芸の首都圏 → 高品質、工芸、芸術の関西）

・“王城の地”（平城京、大津京、平安京など）としての威厳と雅。

（皇室行事の実施や時々の、または一部ファミリーのご帰還）

③ 現代（明治以降）

関東（首都圏）は、「富国強兵」から「産業強勢」を目指す日本の社会を主導してきた。これによって我が国が20世紀に世界に伍して発展することを可能にした。

④ 現在

21世紀の現在では、そのような20世紀型社会は大きな変革を迫られて

いる。その理由は;

[国際的]

- ・**オイルピーク**と資源枯渇による崩壊の危機 → 低炭素社会、脱石油社会への移行。
- ・**自然生態系**の崩壊への対処 → 自然共生社会へ。
- ・**グローバル経済崩壊可能性**への備え、→ 脱グローバル化。

[国内的]

- ・**人口減少**への対応、→ 下り坂社会、自然回帰社会。
- ・**地方崩壊**への対応、→ 地方自立、脱近代の模索。
- ・**経済崩壊可能性**への備え、→ 地域循環経済へ。
- ・**首都直下型地震**への備え → 複眼構造の形成。

⇒これらを踏まえて「東近江モデル」が

・環境問題への対応:

- ① 質に関するフロー現象 …化学物質汚染→リスクに関するもの
(防除対策が可能、今後の深刻化は避けうる。)
- ② 量に関するストック現象 …温暖化、廃棄物、底泥など
(対策が難しく、継時的に深刻化する。根本対策が必要。
社会の仕組みの変革→**低炭素社会、持続可能社会**への転換)

・「**持続可能(低炭素、脱温暖化)社会**」の方向

	関東・首都圏	関西
仮説	20世紀型の石油(物質)文明 →崩壊の危機	新たな21世紀型自然共生文明 →人類持続社会のモデルへ
↓		
特性	進取・競争・発展 外的拡大・対外依存 先端大量生産技術	持続・共生・安定 内的成熟・地域自立 高品質・適正技術
↓		
社会像	発展社会のモデルを追求 (リスクを覚悟しつつも効率追求)	持続社会の新たなモデルを目指す (効率を犠牲にしつつも安定を重視)
	:	:
	「輝ける未来」	「懐かしき未来」

* アクティブな mitigation 策
“Sustainable development?”
* エリートによる主導を ..

* パッシブな adaptation 策
“Sustainable & Survivable”
* 誰もが役割を..

(関西人の価値観を象徴?) 堺の街のあきびとの 老舗を誇るあるじにて、
親の名を継ぐ君なれば、君死にたもうことなかれ。
旅順のしろはほろぶとも、ほろびずとも、何事ぞ、
君は知らじな、あきびとの 家の習ひに無きことを。

2) 広域的な連合であることの必然性

府・県・市 単独ではなく、関西圏域で連携することの意義

① 空間的な連携

- ・**流域圏**(若狭・琵琶湖・淀川、大阪湾・瀬戸内 の連携)による、
“水資源、生態系、水運、文化” を基に**バイオリージョナル圏**の形成
(その中心軸は、「琵琶湖・淀川流・大阪湾圏域」であり、この圏域を一体的に見ることなしに、連担する上下流の“洪水、水資源、生態系”を十全に管理することは困難。)
- ・**関西圏の survivable 社会**(エコロジカルフットプリント=1)を追求。
(人類持続の危機に対応する“持続可能社会”は、各地域の自立が十分条件である。
それを目指して、各府県が持つ独自の社会・自然資本 “水、食糧、エネルギー、土地” さらに “地域の支え合い” を統合した「関西広域自給圏」を形成。
<参考: “Sustainable EU”>)
- ・多様な**地域個性**を生かした独自性と支え合い。
「水資源、技術資源、知的資源、観光資源、自然資源、文化資源など」
の特性を生かし関西圏全体として、それぞれが輝く**共栄圏域**を形成。
例: 大阪; 商・工業、 京都: 文化・宗教・学術、 滋賀: 歴史・自然・舟運
兵庫; 交流・多文化、進取 三重: 森里海、 徳島: …
- ・**二つの社会像の共存**
「自然共生的社会」と「先端技術的社会」をバランスよく配置し**持続可能性**を担保:

	＜少数精鋭の＞ 輝ける未来部分	＜関西圏を特徴づける＞ 懐かしき未来部分
〔産業〕 〔技術〕	世界貿易で高収益産業 最先端技術 (世界に卓越する)	地域での互酬による生業 地域適正技術 (地域の資本、人材、知恵で)
〔研究、教育〕 〔基礎教育〕	世界に伍する COE 産業発展への貢献	地域に資する COC 市民社会創造への貢献
〔地域形成〕	中核都市部/ 周辺市街/ 生物多様域/ 自然回帰域 (多世代共住化、コミュニティー協働化、自然共生化)	

② 制度的な連携

・共有した社会像を実現するための「**法制度、経済制度、社会制度**」を圏域共通的なものとして設定。

- 例：
- ・ 関西広域****特区**/ 関西広域**税制**/ 関西広域**圏通貨**
 - ・ 技術・製品に対する関西広域**認証制度**(安全、環境、福祉など)
 - ・ 教育に対する関西広域**圏教科副読本**(歴史、文化、倫理・哲学)